

△クリアナール錠、▼内用液 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 フドステイン fudosteine 【分類】 気道分泌細胞正常化剤

【単位】 △200mg/錠、▼内用液 8%

【常用量】 1200mg/日

【用法】 分3 食後

【透析患者への投与方法】 尿中未変化体排泄率が低いいため減量する必要はないと考えられる (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 尿中未変化体排泄率が低いいため減量する必要はないと考えられる (5)

【特徴】 気道上皮杯細胞の過形成抑制作用を有し、痰のフコース/シアル酸比を正常化することにより痰の粘性や弾性を改善し、線毛により輸送されやすい気道分泌液の状態に再構成する。

【主な副作用・毒性】 発疹、そう痒、感覚鈍磨、ふらつき、しびれ感、顔面紅潮、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸やけ、口渇、頭痛、肝機能異常など

【吸収率】 食後投与よりも空腹時投与の方が Cmax, AUC とともに大きい (1) 主に小腸で 93~96% [イヌ, ラット] (1)

【F】 80~85% [イヌ, ラット] (1)

【tmax】 食後 1.17hr, 空腹時 0.42hr, 高齢者食後 1.94hr (1) 0.6hr [空腹時] (Jiao HY, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 31: 65-71, 2006)

【代謝】 主に腎臓および肝臓で代謝されアミノ基の N-アセチル化された M1, M1 のアルコール部分の酸化された M2, その他 M3, M4 になり代謝物に活性はない (1)

【排泄】 尿中に M1 が 39%, M2 が 5%, 未変化体が 1%排泄 [36hr まで] (1) 【CL/F】 AUC より 20L/hr (1)

【t1/2】 2.7hr (1) 2.4hr (Jiao HY, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 31: 65-71, 2006)

【蛋白結合率】 ほとんど結合しない (1)

【Vd/F】 単回投与成績より約 80L/man (5)

【MW】 179.24

【透析性】 おそらく透析される (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にはならない 【O/W 係数】 水相に分配 (1) 【pKa】 3.1, 8.8 (1)

【更新日】 20170112

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。